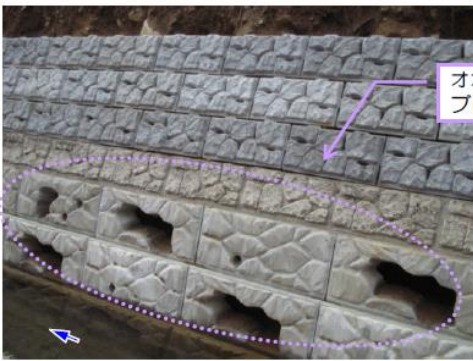


個票 22 生物の繁殖時期や集団渡来時の工事内容の検討 [河 2(2)③3-1]

(2012年作成)

配慮の視点	種の多様性への配慮	配慮項目	野生生物の生息・生育環境の保全・創出
配慮事項	空隙の多い環境の保全		
配慮事例	防波堤や護岸などの整備に自然材料や消波・根固めブロックで空隙のあるブロックの使用		
内容	●生物の繁殖時期や集団渡来時の工事内容の検討 【解説】 水際部の空隙は、魚類等の生息環境の保全や植物の生育環境の創出等に対し、非常に効果的である。このため、治水上天然素材の使用が困難な場合でも、環境保全型ブロックなどの人工素材を使用し、多孔質な構造を確保することが望ましい。		
	【具体的な工法・配慮事項】 護岸に寄せ石等の設置が困難な場合は、種に魚類の生息や避難場所を創出することを目的として環境保全型ブロック等を設置する。ブロックは、コンクリート製のものが多く、内部に空洞部分を設けたもので、河川形状や設置環境、魚類などにより、空洞部分の大きさや奥行などが異なる。空洞部には開口部分が設けてあり、魚類が出入りできるようになっている。		
	【事例1】		
	 オオサンショウウオ用ブロック		
	  オオサンショウウオ用ブロックの内部には、自然石やパイプを用いて巣穴環境を創出している		
	【場所】 兵庫県 出石川 【環境配慮の内容と方法】 ・オオサンショウウオの昼間の住処となる空隙を確保するため、護岸に専用のブロックを使用した。		

留意点	
参考資料	1 「ひょうご・人と自然の川づくり事例集 2011 生態系に配慮したひょうごの川」 兵庫県県土整備部土木局河川整備課河川計画室